

154-参-国民生活・経済に関する調査会 平成14年04月17日  
※産業の空洞化および企業の国際競争力の強化について参考人に質問

○辻泰弘君 民主党・新緑風会の辻泰弘でございます。

まず、鶴田先生にお伺いしたいと思います。

確かに先生がおっしゃるように、日本が海外直接投資をして、その、現地の生産、雇用に貢献し、また日本にも直接投資が来て、いろいろ国際的な分業が進んでいくということであまりうまく流れば、それは双方にとっていい形だと思うんですけども、この先生の論文にもあるように、現実には日本への直接投資はそんなに来ていないと。そして、かつ日本からはかなり行って、その結果として、日本には百円ショップのようなことを象徴的に、消費者から見れば非常にハッピーなことでありますけれども、そういうことがはんらんしている中で現実に町工場がつぶれているという現状がある。すなわち、日本から物づくりというものがかなり廃れていっているという現状になっていると。そして、現実に身の回りのものを作らない国に日本がなりつつあるのではないかと、このように私は大変懸念しているところでございます。

その意味で、理想としてはいいことではあるんですが、本当に今の状況が継続していくことが日本の経済全体にとっていいことなのかということで、私は、率直なところ答えが出ないんですけども、疑問に思っているところでございまして、その点について先生のお考えを教えてくださいたいということが一つ。

それから、その流れの中でもあります、日本はこれから一体何を作る国になるのかと。先生の御指摘のように、一般論としては高技術、高品質、高生産性、高付加価値というふうに言われるわけですが、じゃ、一体本当に何を作って何を売っていくのかと。結局、日本は身の回りのものはほかの国に任せて、机の上で作るものといいますか、そういうものを、身の回りのものではないものを作っていくということになるのでしょうか。その辺をちょっとイメージとして教えていただきたいということが一つ。

それから、先生の御指摘のあれは、直接投資を増加させるため促進が必要だとおっしゃっているわけですが、そのために何をなすべきかということ。この三点を教えてくださいたいと思います。

それから、小倉会長に対しましては、当然、経済産業の発展ということから見ますと、技術の継承ということがおっしゃっているとおり大事なことで、特化した技術の研さんに努めているんだという御指摘があったわけですが、さっき、リストラされた息子が継承しているというお話をされておりましたけれども、技術の継承というものが、すなわち若い人が採用されるということがスムーズにいつているのかどうか。そのことについて教えてくださいたい。

それからもう一つ、鶴田先生と同じですけれども、日本は何を作っていく国になるのか。大田工業会ではもちろんその中でやっていらっしゃることを発展させることになると思うんですが、よりちょっと次元を変えて、日本は何を売る国になるのか、作っていく国になるのかと。このことについてお考えがありましたら教えてくださいたいと思います。

○参考人（鶴田俊正君） ありがとうございます。

今、先生が三つのことをお尋ねいただきましたけれども、それぞれ答えますと若干、三分を超えるかもしれませんが、お許しをいただきたいと思います。なるべく短くお話ししたいと思います。（以下略）

○参考人（小倉康弘君） 大変三分というのは厳しゅうございまして、ちょっと延びるかもしれませんが。

何を作るかということになりますと、工業人としては、より精度の高い製品に転化していく以外にないというふうに思っております。(以下略)

○辻泰弘君 ありがとうございました。